
非常識でも常識

リュウ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

非常識でも常識

【Nコード】

N3026P

【作者名】

リュウ

【あらすじ】

だれか・・・こいつらを雇ってください

俺はもう金がないんです

俺の家

俺は言わずとしてた有名人。

世界中で俺の名前を知らない人なんていない

お金だってたくさん持っている

豪邸に住んでいて、その豪邸にはたくさんのメイド達がいる

そう、俺は誰もがうらやむ世界一有名で世界一お金持ちなのだ

・・・・・・なんていうのは嘘

俺はただのしがないフリーター、お金もなければ有名人でもないただの一般人。豪邸なんてのも嘘、実際は2LDKのマンション暮らし、両親も俺が中学のときに不幸な事故で他界、高校卒業して一年になるがこの不景気で正社員にもなれずフリーター、バイトをしてなんとか生活をしている。

ただひとつだけ嘘じゃないのがある。それは俺の家にはメイドがいるということだ

ただのフリーターが2LDKのマンションなんて豪華すぎやしないか？とか思わなかったか？俺だったら1Kで十分だ、だが俺には

なぜかメイドがいる。そう・・・なぜか・・・

「あの・・・ご主人様」

「なんだ？」

時間は午前10時30分、深夜のバイトをやっている俺は日中は家にいる。これからメシでも食べて寝ようかと考えていたところ、噂のメイドに声をかけられた

「私たちはこれから何をすればよろしいのでしょうか？」

私たちというもちろん一人ではない、五人いる。このせまい家に五人のメイド＋フリーター・・・どういう家なんだか・・・

「じゃあもう休んでいいよ」

さすがに五人もいると家事全般は午前中で終わる、そうするとやる事がなくなりこうやってバイト終わりの俺になにかやる事がないかと聞いてくる

「わかりました」

そういうとメイド五人はおのおの休みだした、あるメイドは読書始め、あるメイドはファッション雑誌を眺めたり、あるメイドはゲームを始めたりと自由に過ごしている

（でも・・・なんで俺の部屋で？）

ちゃんとメイドたちの部屋もあるし（一部屋だけ）リビングだった

である、なのにこいつらはなぜか俺の部屋でしか休憩をしない

「よしお前らひとつ確認したい」

夜のバイトをして俺は物凄い眠い、だがそんなことよりも俺は確認したいことがある

「その本やゲームはどうやって買った？」

「もちろんご主人様の稼いだお金を・・・」

俺はこの一言で激怒した。ただでさえ赤字なのにこいつらの娯楽までお金をまわさないといけないのか。さいわい明日は休みだし寝るのはあとにしてこいつらに説教だ。

そしてはやく俺の家から出て行ってもらう。

「最初は普通のひとりぐらしだったのになあ・・・」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3026p/>

非常識でも常識

2010年12月5日01時55分発行